

**【3】** =====

図(b) の真理値表より, 出力 z の論理式は  $z = x \cdot \bar{y}$  でなければならない.

一方, 図(a) の組合せ回路より, 論理ゲート G の出力を  $G(x, \bar{y})$  と書くと, 出力 z の論理式は次式となる.

$$z = \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot G(x, \bar{y})$$

従って,

$$x = 0 \text{ のとき } \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot G(x, \bar{y}) = G(x, \bar{y})$$

$$x = 1 \text{ のとき } \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot G(x, \bar{y}) = \bar{y} \cdot G(x, \bar{y})$$

真理値表からは,  $z = x \cdot \bar{y}$  であるから,  
 :  $x = 0$  のときには  $z = 0$   
 :  $x = 1$  のときには  $z = \bar{y}$

となるが, 真理値表から分かるように,  $x = 0$  のときには  $z = 0$ ,  $x = 1$  のときには  $z = \bar{y}$  とならねばならない.

従って,  $G(x, \bar{y})$  が,  $x = 0$  のとき  $G(x, \bar{y}) = 0$ ,  $x = 1$  のとき  $G(x, \bar{y}) = \bar{y}$  となるような論理式であれば, 真理値表で与えられる出力 z を出す.  $G(x, \bar{y})$  がこのような条件を満たすゲートは,  $x = 0$  が制御値となるような論理ゲートで, AND ゲートである. すなわち,  $G(x, \bar{y}) = x \cdot \bar{y}$  であれば,

$$z = \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot (x \cdot \bar{y}) = (\bar{x} + \bar{y}) \cdot (x \cdot \bar{y}) = x \cdot \bar{x} \cdot \bar{y} + x \cdot \bar{y} \cdot \bar{y} = x \cdot \bar{y}$$

となり, 真理値表から得られる式と同じになる.

なお, このような式の変形が分からない場合には, 右に示したような真理値表を描いて確かめればよい.

x	y	$\bar{x} \cdot \bar{y}$	$x \cdot \bar{y}$	$z = \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot (x \cdot \bar{y})$
0	0	1	0	0
0	1	1	0	0
1	0	1	1	1
1	1	0	0	0

ちなみに, G が AND ゲート以外の場合の出力 z の論理式を求めると, 次式となる.

OR ゲートの場合 :

$$z = \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot (x + \bar{y}) = (\bar{x} + \bar{y}) \cdot (x + \bar{y}) = (\bar{x} + \bar{y}) \cdot x + (\bar{x} + \bar{y}) \cdot \bar{y} = x \cdot \bar{x} + x \cdot \bar{y} + \bar{y} = x \cdot \bar{y} + \bar{y} = \bar{y}$$

NOR ゲートの場合 :

$$z = \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot \overline{x + \bar{y}} = (\bar{x} + \bar{y}) \cdot \bar{x} \cdot y = \bar{x} \cdot \bar{x} \cdot y + \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot y = \bar{x} \cdot y$$

NAND ゲートの場合 :

$$z = \bar{x} \cdot \bar{y} \cdot \overline{x \cdot \bar{y}} = (\bar{x} + \bar{y}) \cdot (\bar{x} + y) = (\bar{x} + \bar{y}) \cdot \bar{x} + (\bar{x} + \bar{y}) \cdot y = \bar{x} + \bar{x} \cdot y + \bar{y} \cdot y = \bar{x} + \bar{x} \cdot y = \bar{x}$$

なお,  $x = y = 1$  の場合, G の出力が何であっても  $z = 0$  となるから,  $x = y = 1$  は G のドントケアである. また, x あるいは y のどちらかが 0 の場合,  $z = G$  となることから, G の真理値表が右図のようになれば, z は所望の値となる. 従って,  $G(x, \bar{y}) = x$  とするだけで, 図(a) の回路は図(b) で指定された値を出力する回路となる.

x	y	G
0	0	0
0	1	0
1	0	1
1	1	*